

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0872800065		
法人名	社会福祉法人 慈光学園		
事業所名	北向内荘	ユニット名(北向内荘②)
所在地	茨城県坂東市生子1609-8		
自己評価作成日	平成 30 年 9 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの法人母体は、地域で長年にわたり障害児・者施設および保育園を運営しています。知的障害児・者施設の子供の日や運動会の行事等に一緒に参加させていただいたり、保育園児が北向内荘に定期的に来てくれ、歌やお遊戯等をして楽しませてくれております。また、地域の祭りには家族と一緒に参加したり、地域の神輿が北向内荘の中庭に来てくれるなど多くの人たちとのふれあいの時間を大切にしています。
「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」を基本理念とし、全職員が各自の責任や役割のもと、利用者が居心地良く暮らせるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」の理念を誰もが目にすることができるように玄関を入った廊下と居間に掲示し、事業所のパンフレットにも掲載している。職員は毎朝の申し送り時に理念を唱和して共有し、常に意識して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人々から農作物のお裾分けを頻繁にいただいている。利用者は近くの神社の夏祭りに家族等と共に参加したり、「保育園児」「琴」「八木節」等のボランティアが訪問するなど地域と日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人母体の行事などを一緒に行い、地域の方々を招待し交流すると共に介護支援専門員による介護相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族等や市職員、地域包括支援センター、民生委員、、区長、班長、センター長、管理者等で2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況や事業計画などを報告している。また、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や福祉施設事業者連絡協議会などの会議を利用し、市担当者と協力関係を築くように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に「身体拘束廃止に関する指針」を元に研修を行い身体拘束の行為を正しく理解して身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠については玄関が道路に面している為危険な為本人及び家族等に説明し同意を得たうえで施錠しているが中庭からは自由に出入りしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に高齢者虐待防止法について、職員全員で研修を行い、虐待が見過ごされることのないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に権利擁護に関する制度について職員全員で研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を解決し、理解し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名のアンケートを年2回実施しサービスの質の向上に活かしている。また、利用者の面会時や運営推進会議時には、家族等の意見を聞くようにしている。また、玄関の見やすいところにご意見箱を設置し、いつでも意見や要望を言えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長は随時職員の個人面談をしている他、必要な場合は随時面談をしている。管理者は、相談しやすい雰囲気作りに努めると共に意見等を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常時事務室内に就業規則を備え付け、職員が必要な時に容易にみることができるようになっている。また、給与についても公務員に準じた給与規程により支給している。さらに職員が必要な資格を取得した場合昇給しやりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格や職務経験年数に応じて各種外部研修等に参加している。受講した職員は研修内容をミーティングで報告し全員が研修内容を共有できるよう取り組んでいる。また、施設内の勉強会や研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市介護保険事業連絡協議会の施設サービス部会に積極的に参加し、地域との交流や情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の説明の際、本人と面談をし、本人の安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の説明の際、家族等関係者と面談をし、本人の安心を確保できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の面談により、今必要としているサービスを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と共に過ごしている中で、昔からの知恵や考えを聞いて暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には自由に面会できる様にしている。また、看取りの時などは時間に関係なく一緒に過ごしていただいております、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの人がいつでも気軽に来訪ができるようお茶を出して接待している。また、夏祭りには、来ていただける家族には人数に関係なく参加してもらい、神輿を見に行ったり、花火を楽しんでいただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し話し合えるような場所と時間を提供している。日中、デイサービスに来られる人との関係を大事にされている人には、デイサービスのレクに参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)の終了は、看取りとなる事が多いが、荷物を引き取りに来た時など家族と本人の思い出話をしながら家族が穏やかな気持ちになれるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居時のアセスメントで利用者様の生活歴を把握すると共に、日常のふれあいの中から行動や表情を観察し、利用者様一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居した際は、ミーティング時に、利用者様のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス内容が職員全員に理解できる様に説明し把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月ごとの体重測定をし、BMIを算出している。また、毎朝血圧と体温を測定しながら声掛けし、心身状態などの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、モニタリングにより利用者様や家族等の希望を取り入れて作成すると共に、6ヶ月ごとに見直して利用者様や家族等の同意を得ている。利用者様の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果や気づき、工夫を個別記録に記入し、申し送りをしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様で通院が必要になった時にご家族が通院介助ができない場合はこちらで通院支援している。また、利用者様の希望により訪問美容に行けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が買い物をしたい時は、近所のお店に買い物に出かけられるように支援し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができる様にしている。また、選挙に行き、地域の一員として参加出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族等の希望に添ったかかりつけ医への受診を支援している。夜間の緊急時にも協力医療機関の医師および看護師に24時間体制で連絡がつくように連携を図っている。受診結果については、電話等で家族に報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師がいるので、利用者様の日常の健康状態や不安等を伝え相談している。また、訪問看護を利用している利用者様に対してはその都度対応を相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、本人・家族・病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関や家族と密に連携を図り、看取りを支援している。「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を作成し、段階ごとに家族と主治医と確認し対応している。入居時には利用者様や家族等の意向を「北向内荘ご利用者事前指定書」で確認すると共に医療連携(看取り)の同意書でも確認を得ている。また、以上の事について、全職員で共有し、チームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は救急法を学び、急変や事故発生時に備えて実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回消防署立会いのもと、避難訓練を職員役割分担を決め実践している。地域の人々に参加してもらい協力を得ている。災害に備えて食料を備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護についてミーティング時に研修を行っている。職員一人ひとり毎月チューターを使い自己評価している。特に利用者様の人格を損ねない対応や言葉かけには注意をし支援している。広報誌等に利用者の写真を掲載する場合は、事前に鍵が掛かる書庫に保管し管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替える時に、どれを着たいか選んで頂けるように声掛けしている。お茶の時間は、何を飲みたいか希望を聞いて選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調、心の状態を大切に支援している。居室で過ごしたい人には居室で過ごして頂いたり、フロアで皆で過ごしたい時にはレクリエーションを行ったり、デイサービスのレクに参加したい人にはデイに参加して頂いたり希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族より本人の好みの服を持って来ていただいている。着替えの際は、本人に選んで頂いている。ヘアカットは、グループホーム内に美容師がいるので気軽に声をかけカットしている。パーマや白髪染めは訪問美容室に来て頂きおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、ジャガイモの皮むきやもやしの手付けや食器拭き等出来る事を職員と一緒にやっている。また、外食も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食毎にチェックしている。一人ひとりの状態や力、習慣に応じ、刻み食やお粥やミキサー食、またおにぎりにしたり食べて頂けるように提供している。食欲のない時は、バナナやプリン等食べられる物を食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアと義歯の洗浄を行い、口腔内の状態もみている。自分の歯の方には自分で歯を磨いて頂き仕上げは職員が介助している。また、訪問歯科を利用し口腔状態もみて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しタイミングを見計らって声掛け誘導している。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに補給して頂けるように利用者の好む甘いカルピスやポカリなどを取り入れてまめに飲んで頂けるようにしている。また、食事に食物繊維の多い食材を使っている。午後、レクリエーション時にリハビリ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週3回予定しているがその日の気分により入浴したいとの訴えがあった時には入っていた。また、入りたくないとの話があった時は、次の日にしたりと変更している。また、季節の菫蒲湯やゆず湯を楽しんで頂いたり入浴剤を入れたり楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠されている利用者様には声掛けをし居室で休んで頂いている。また、一人で眠るのが寂しい人の居室はドアを少し開けておき安心して眠れるように声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者内服一覧表を看護師が作成し、職員全員が見られる場所にあり内服や外用薬の確認ができ、一人ひとりの薬の目的や副作用を理解している。薬の変更時は、申し送りノートに記載し職員がわかるように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭いじり、礼拝などその人の大事にしている事が続けられるように支援している。また、饅頭作り、洗濯物たたみ、食器拭きをしていただいたり、デイサービスのレクにも参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩をしている。商店が近くにあるので、自分の好きなカップヌードルやお菓子など買い物に出掛けている。商店の人とは顔なじみなので世間話をして気分転換している。また、お盆にはお墓参りに行くため自宅に帰られる人もいた。毎週、弟が迎えに来られ礼拝に出掛けられている人もいる。家族や地域の人に守られながら出かけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預り、買い物に出掛けたり食事会に出掛けている。また、夏祭りには露店商で好きな物を買っている。また、お金の管理が多少出来る利用者様には管理して頂き、自由におやつ等の買い物が出るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話を掛けたいとの話があった時は、事務所から掛けて頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近に季節を感じられる鉢植えを設置したり、居間には季節を感じられる貼り絵を飾っている。居室や居間から庭が眺められ、季節を感じられる造りになっている。廊下は広く手すりを取り付けられ利用者様が歩行しやすくなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室が個室になっているので、一人になりたい時や面会の人 came 時は気兼ねなく過ごして頂けるように支援している。利用者同士で話しやすいように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や居間は冷暖房が完備され、居室にはナースコールが設置されている。居室には使い慣れた家具や馴染みの物品を持ち込んでいるほか、仏壇や家族等の写真など居心地良く暮らせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにバリアフリーになっている。廊下やトイレ、浴室には手すりが付いている。また、トイレ、浴室、居室にはナースコールが付いているのでいつでも職員を呼べるようになっている。		